

タ」といつて居る。

四月十九日 海氣館が無闇に氣に入つたらしく、

何かにつけては思ひ出して「海氣館へ行きませ

う」といふお作さんとおりんさんとの咄しゝて

頂戴といふ。これは其處の女中の名なり。

その咄をすると、何時までも、もつと〜とい

ふ。

「ナイッテバ」といふ言葉を感じて、近頃来て居る

名八さんに、しきりと、「ナイッテバ」を使つて

いはる。道を歩くに向ふより車來る時は遠方に

居ても、「オジャマ〜」といつて、なか〜歩

かず、無理に歩かせ様とすると、「コラバカ」と

いふ。「コラ」といふ言葉も近頃使ひ出したるに

てこれも名八さんが少しでも氣に入らぬことを

する時に、よく「コラ」といつて、時には手を舉

げて打たうとするなり。

實驗上の育児

醫學博士 瀨川 昌 著

哺乳兒の兩便

▲母乳と牛乳とは大便が違ふ 母乳で育てる兒

と、牛乳で育てる兒とは大便の性質が違ふので

す、母乳だと黄色味を帯びて居るが牛乳だと灰白

色で其上母乳の便より固く、分量が多く爾うして

臭氣が強い、斯くの如き相違を來すが其内には菓

子を食べたり、粥を食べたり、少しづつ食物を食

べるやうになると、母乳で育てゝも、牛乳で育て

ゝも大人と同じ褐色の便となり、臭氣がある。

▲病氣の時の大便 前にも云ふ通り哺乳兒が病氣

にかゝれば直ぐ、大便が變化を來して、綠色にな

つたり、泡立つたり、ブツ／＼を交へたり、暗褐
 色となつたり、水飴のやうになつたり、粘液が交
 つたり、血が交つたりするやうになる、母乳はか
 りの兒でも、病氣になると大便に悪臭を帯び來り、
 時としては水の如き稀薄になり、或は母乳が少し
 も消化せず其儘排出こともある、牛乳で育てる兒
 の、大便が固く灰色になり、丁度粉糞を捏ねたや
 うになり、従つて容量も多いのは是腸の悪い證據
 で斯んな徴候があつたら捨て置いては宜けません
 ▲小便の注意 先づ大便は斯んな有様ですが次に
 小便は何んなものかと云ふに初生兒時代にお咄し
 仕た通り初めは生後二十四時間位放尿ぬものでも
 放初めれば随分澤山、度々放て十回から二十回位
 は珍らしくもない程屢々出ます、従つて襁褓を取
 換へても直ぐ濡れる、實に取換へるのに違なき程

ですから「ママ何うして此兒は小用が斯んなに近
 いのだらう、冷へでもするのか夫れとも何處か悪
 くでもあるのか知らん」と親々に氣を揉ませる程
 近く放る、十分間か二十分間で襁褓の濡れること
 もあるけれど、斯ういふ場合は健康な兒でも多く
 有勝ちの事です、併し段々成長するに従つて今迄、
 少量宛回数が多かつたものが、次第に量が増えて
 回数が減するやうになる、夫れは實地哺乳兒を取
 扱へば自然お解りになる事だが、去ればとて一日
 に僅か二回か三回では宜しくない、斯く小便の遠
 くなるのは發病の原因と推斷してよくよく油斷せ
 ず哺乳兒の様子を注意し異狀があれば相當な手當
 を講じなければならぬ。

▲牛乳と小便の關係 哺乳兒の大小便に注意する
 事の必要は斯くの如く大切であるから經驗薄き母

親はくれぐれも忽にせざるやうに願ひたい、尙牛乳で育てる哺乳兒は小便の量が多いやうだと、御質問がある、夫は全く多いに相違ないので詰り母乳よりも餘計に飲むから従つて小便の量も増すので心配になる事ではありません

哺乳兒の保育法

▲大切な營養法 哺乳兒の成育状態は是迄お話し致した通りで体量の増え方や、生齒時期の困難睡眠の事、這ふ事又は歩行の事視官聽官の發育大小便の事等は一々能く記憶し、自分ぐの哺乳兒の状態を之に引較べ、健康であるや否やを注意したら、其兒の發生を誤まる事なく完全に育てる事が出来やう、成育の健康状態に續いて今度哺乳兒の保育法に移ります、其の保育法中尤も大切なるは營養法で之れは愛兒の健康如何に重大の關係

ある事なれば親々は以下説明する事を充分に理解し、注意されるやうに仕たいものです。

▲西洋の母親 哺乳兒の營養物は何が第一必要であるかと云ふに、之れは申す迄も無く生母の乳汁に越した事はないのです、夫も或る事情のため其の乳汁を廢めなければならぬ場合の外は母乳が適當で、又安全で、容易く得られるから、何を擇ぶよりも生母の乳汁に限るのです、併し西洋では労働者が己れの職業のため母親が自身保育する事能はず、已むを得ず小兒保育所の如き所へ頼み、職業に就く前に小兒を其處へ預け、夕方歸る時再び小兒を引取つて歸る、夫れから上流社會にては母親が自身の用務の忙しき爲めとか或は自分の容貌の衰へるを憂ひて、生だ兒に親の乳汁を與へず乳母を置く者杯が多い、故に西洋の衛生家は之れ

を憂ひ、勞働社會の親は上流社會の親達をして自身哺乳せしむるやうにしたいと頻りに社會に向つて之れを訴へて居る。

▲衛生家の憂ふ處 併し西洋では親子の情より夫婦の愛に厚く、父母は睡ましげに腕を組んで散歩する時其の子は跡から同伴のやうにブラ／＼趾いで歩いて居る、母子の情も斯くの如くで日本の様に母親が子を寵愛し乳汁を永く飲ませたりする事はないが、乳汁を吸はせぬと乳房の發達は次第に悪くなり、段々乳汁が出なくなる、之が子々孫々に遺傳すると全く乳房は不完全なる發育を遂げ、兒を生んでも、乳汁をもつて保育し得る事が出来ぬやうになる、既に西洋でも此れに對する統計もあるし漸々此の弊害の甚しき徴候が現はれて居る、夫れを彼地の衛生家は心痛して居るのです。

▲母親の身体 幸ひ日本には斯くの如き弊害は多少ない、凡て兒は生母が育てる事になつて居るのは誠に喜ぶべきことである、切爾うなると母乳の成分の善悪や分量の増減と云ふ事は大に注意すべき事で、直接哺乳兒の營養如何に關係を及ぼすのです之には母親の身体が充分強壯でなければならぬから乳汁に關する母親の攝生法から順を追つて述べよう。

産婦の食物と乳汁

▲適當に控へ目に食せよ 母乳の分量を不足なく充分出るやうにするには必ず母体を健康にしなければならぬ、母乳と母親の健康とは相伴ふものなれば、出産した婦人の攝生法は申す迄もなく大切な事であり、去れども古へより日本では餘り産婦の攝生を嚴重に仕過ぎ食物上の禁忌を矢

しく言ひ過ぎたものです、先づ産後一週間の食物は鹽に、白粥に、梅干位が通例で其外には何も與へない、産婦も夫れを甘んじて居つた、今日から考へると之では餘り嚴重に仕過ぎたので、斯く迄せずとも消化し易きもの即ち粥に味噌汁夫から、牛乳、豆腐、半片、小魚、脂濃くない刺身類、奈良漬のやうなものは、適當に、控へ目に食すれば決して差支へないのです、香の物なども習慣上容易に與へなかつたが消化し易きものなら之れも害にはなりません。

▲普通の食事 乳汁は食物を喰べる程分量が多く出るが、爾うかと云つて腹一杯食べる事は宜しくない、元來産婦は腹の減るもので、食物の要求は平生より多いけれど、此の場合には少しづつ、幾度にも食べるやうになさい、産後直ちに肉類や魚類

や玉子の如き蛋白質勝ちのものを多く攝取すれば自然乳汁が濃くなつて初生児のためにはならぬのです三四週間の後健康の母親なら追々と普通の食事をするが宜い

▲俗に於てられる事 三四週間経つたなら其人の食べ慣れたものは選り嫌ひせんでも宜しいが尙注意して置きたいのは漢法醫の間に未だに唱えられて居る食物禁忌で民間に迄傳へられて居る、斯んな事は實驗上にも道理上にもない事です、特別の食物なら知らぬ事、普通其人々の食べ馴れたものなら別に害になるものを含んで居る筈もなし消化された營養分に異りのあり等はないのです、夫れも消化機でも悪るければ不消化を起して、害になることもある、能く世人は「食物に中てられた」と云ふが、之れは胃腸で消化されずに却つて胃腸

を害するからである、故に産婦とても爾う民間や漢法醫の云ふ程嚴重に食物を禁忌せずとも食べ馴れたものは何を喰べても胃腸に害を及ばさぬ程度なれば差支へありません。

▲青い便 私(わたし)の病院(びょういん)東京小兒科院(とうきょうせうじこくいん)へ小兒(せうに)の患者(くわん)を連れて來る母親(はは)が其(その)の兒(こ)の容体(ようたい)を話(はな)される時に何(なん)うも兒(こ)が青(あ)い大便(だいべん)で困(こま)りますが、之(こ)れは多分(たぶん)私(わたし)が青(あ)いものを食(た)べたから夫(そ)れで斯(か)ういふ青(あ)い便(べん)をするのでせう」と云(い)つて辯疏(いひわか)するやうに申(まを)さるゝ事が往々(わうわう)あります、成程(なるほど)斯(か)ういふ事柄(ことづから)は昔(むかし)から云(い)ふ事で、又此(また)説(せつ)が世(よ)上に信用(しんよう)されて居(を)りますすが實際(じつじやう)際(さい)爾(に)ういふ譯(わけ)のものであらうか、青(あ)い食物(しょくぶつ)を食(た)べ、其(その)成分(けいぶん)が乳汁(ちゅうじ)に分泌(ぶんびつ)されて小兒(せうに)が青(あ)い便(べん)になるのである、其(その)解釋(かいしやく)をお話(はな)し仕(し)たいと思(おも)ひます、

(つづく)

春の野邊



豊洲

霞(かすみ)こめたる山(やま)々の蝶(ちょう)の羽風(はな)にもえ初(はじ)し
小川(こがわ)に芹(せり)の清(きよ)ければ
紫匂(むらさきのかほ)ふはなすみれ
いと興(きょう)ある眺(なが)め哉(や)
若菜(わがな)つみなん今日(けふ)の日(ひ)を
日(ひ)もうらゝかに風(かぜ)清(きよ)し。
散步(さんぷ)唱歌(たが)の節(ふし)高(たか)く
手(て)をとりかわし同胞(どうぱう)が
家(いへ)づとにとつみためし
香(か)りたつれて蝶(ちょう)舞(ま)へば
鳥(とり)も時(とき)にいそぐなり
けふの遊(あそび)を語(かた)りなん。

